
【JEC-ET】 020202

One More Paragraph!

- J E C の脈絡における福音主義神学的思索のひとつ -

作成日：2002年5月18日(土):PW:4461

こんにちは、関西聖書学院「福音主義神学」教師、一宮基督教研究所の安黒務です。J E C の源流と歴史的遺産をさぐるために、今週は宇田進先生の「福音主義キリスト教と福音派」の「第二章 福音派の源流と歴史的遺産：第二項目 使徒的キリスト教と福音派」のテキストからの第二回目の学びをいたしましょう。

【テキスト】

使徒たちが宣べ伝えた福音は、人間の想像の産物とか、人間の内的神秘的体験というようなものではなく、歴史的事実に根ざしたものであった。

【解説】

前回は、行過ぎた「視聴率と献金」の競争の弊害、いわばプラグマティズム(実用主義)とエバンジェリカル(福音主義)のバランスについての反省を考えてみました。今日は、ブルトマンにみられる極端なリベラリズムとエバンジェリカルの対比を試みたいと思います。

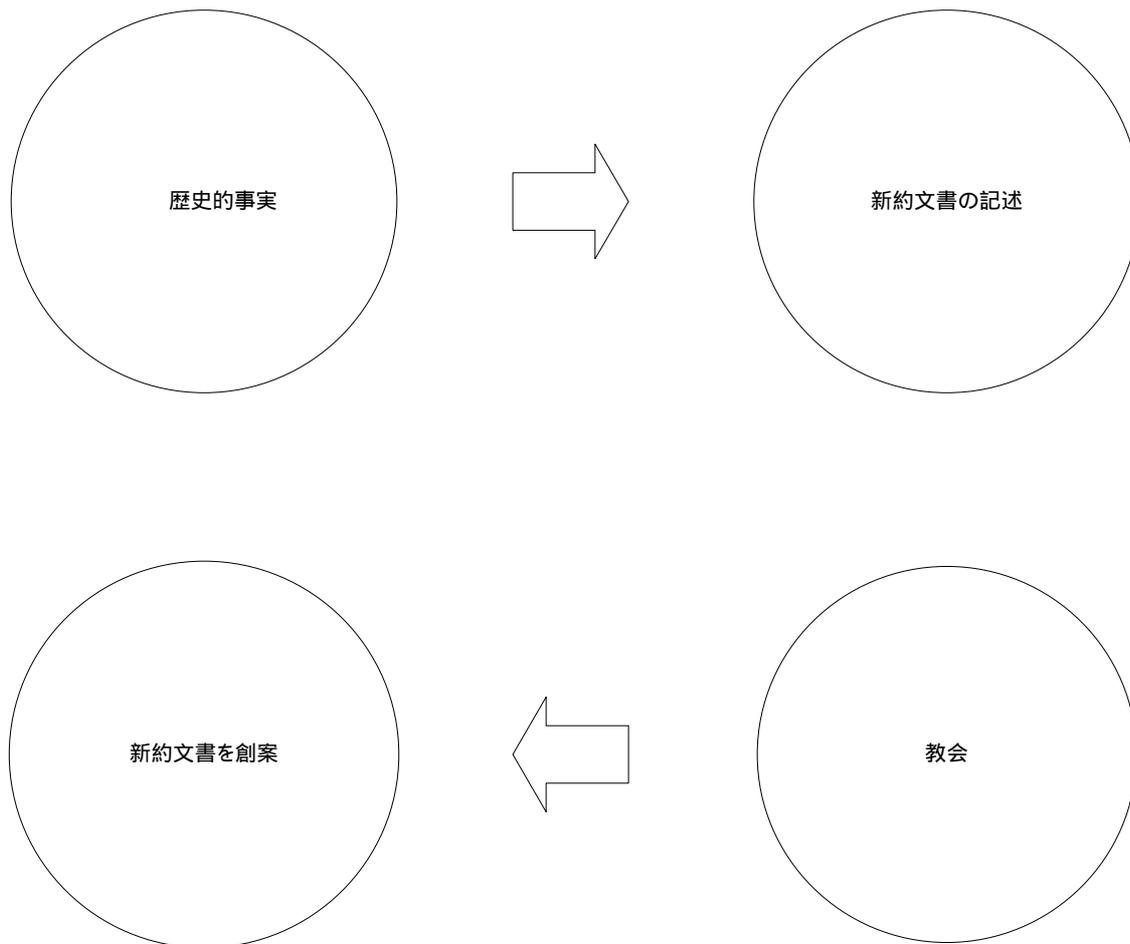
「想像の産物」「内的神秘的経験」ではなく、「歴史的事実」に根ざした信仰について、講義しますときにいつも触れました文献は、G . E . ラッドの「新約聖書神学」でした。この科目は東京基督神学校で宮村武夫師から学びました。特に「第十三章 メシヤ問題」は丁寧に教えてくださいました。その章の副題は「歴史上のイエスと史的イエス」というものでした。要点のみを記しますと、エバンジェリカル(福音派)のラッドは「歴史上実在されたイエスのそのままを正直に性格に描写されたものが新約文書である」と信じていますが、リベラル(自由主義神学)なブルトマンは「新約文書に描写されているイエスは、歴史上のイエスとは異なったお方であり、新約文書には人間イエスが超自然的な存在として着色されたかたちで描かれているから、私たちはそのイエスから超自然性を脱色しなければならぬ」と主張しているのです。

世の宗教の中には、宗祖の死後、残された信仰者たちが宗祖を超自然的なかたちで美化することによって、教団の維持をはかるといふことはよくありそうな事柄です。しかし、キリスト教会はありもしないことをでっちあげることによって伝道と教会形成を行ってきたのではありません。私たちエバンジェリカルはラッドの主張している線に立っています¹。

【関連聖句】

15:12 ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。 15:13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。 15:14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになります。 15:15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜな

ら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせな
かったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆ら
う証言をしたからです。 15:16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストも
よみがえらなかったでしょう。 15:17 そして、もしキリストがよみがえらなかつ
たのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中
にいるのです。 15:18 そうだったら、キリストにあつて眠った者たちは、滅んで
しまったのです。 15:19 もし、私たちがこの世にあつてキリストに単なる希望を
置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。



ⁱ George Eldon Ladd, "A Theology of the New Testament ", Eerdmans, 1977, p.173-180